

Japanese Association of Trombonists JAT NEWS

第 61 号

日本トロンボーン協会会報 2004.2 発行

事務局：〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14 MBS音羽ビル5F プロアルテムジケ内 tel.03-3943-6677 fax.03-3943-6659
郵便振込：日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

三輪純生会長からのご挨拶

トロンボーン協会会員の皆様、お変わりなくお元気のことと思います。世界的不況 政情不安の中、今年もオリンピックイヤーを迎えるました。はたしてどんな年になるのか、期待と不安が入り混じっての2004年です。トロンボーン協会は発足以来19年目を迎え、会員の数も300名に達しようとしております。協会の各種事業も会員各位の多大なご理解とご協力のもと、ますます充実したものとなって参りました。各理事が各自の分野でその才能を遺憾なく発揮され、常にすばらしい結果を残してくれています。そして各音大のトロンボーン科の生徒さん達で結成された「日本トロンボーン学生連盟」の参入も大きな力となっています。感謝感謝です。昨年3月のフェスティバルには、新たにフェスト、アンサンブルコンテストも行われ、また、個人のレッスン、アンサンブルのレッスンに多くの方々の参加がありました。ジャズの向井滋春トロンボーンズや若手プロ、アンサンブル「ジバング」の賛助出演で大い



に盛り上がりを見せました。秋の若い人たちのためのコンペティションも45名のエントリーを数え、またまた優秀な若手が現れました。今年のフェスティバルにはトロンボーン界の大先輩、谷 啓さんが参加して下さることとなり、今からとても楽しみです。昨年は、それにしてもトロンボーン部門の含まれたコンクールが多い年でした。東京文化会館の「第一回東京コンクール (Trp, Hr, Trb) 第一位府川雪乃さん。「日本管打楽器コンクール」(Trb部門)

第一位篠崎卓美さん。「コンセール、マロニエ21」(Trp, Hr, Trb)最優秀賞、井上康一さん。「練馬文化センター新人演奏会」(Trp, Hr, Trb, Eup, Tub)最優秀賞、轟 敬さん。それに当協会主催の「若い人達の為のトロンボーンコンペティション」第一位栗川暁洋さんなどなどがありました。特に管打コンの篠崎さんはバストロで、すばらしいテクニックと音色の豊かさがとても印象的でした。バストロでの第一位はコンクール史上初ではないかと思います。そして、今アメリカで活躍中の山本浩一郎さん(メトロポリタンオペラ) 神田めぐみさん(ミルウォーキーオーケストラ首席)も今年日本でのリサイタル等で、その演奏を披露してくれるとのことでこれまで大いに楽しみにしています。話は違いますが、昨秋、我が協会の最高の友人、M.ベツケ氏が交通事故で大ケガをされたと聞き、大変心配しましたが、最近は大分よくなられたとのことで安堵しています。そん

なこんなで、昨年はいろいろありましたが、当協会は常に人の和を大切にし、より強い絆で会員の皆さんとともにますます発展してゆこうと思っております。どうぞご理解、御協力をお願いいたします。2004年も、皆様にとってよい年でありますようお祈り致します。

平成16年1月 日本トロンボーン協会会長 三輪 純生

第21回トロンボーンアカデミー＆フェスティバル実行委員長挨拶 牧瀬頭利

大変ご好評をいただいている「トロンボーン・アカデミー＆フェスティバル」が今年も近づいてまいりました。毎年、常任理事が実行委員長となり各人の持ち味を生かし趣向を凝らしたメニューで皆様のご来場をお待ちいたしております。

今年は若輩者の私、牧瀬頭

利が実行委員長という大役を仰せ付かり、その重圧と戦う日々が続いております。右も左も解らずにとにかく「皆様が喜んで下さる内容」を目指して邁進してまいりました。そして気が付けば「自分が成功させられるのだろうか」と思うくらいの素晴らしい内容になったと自負出来る企画になっております。

アカデミーでは通常のコース別レッスンの他にオーケストラ、プラスバンド、ピッグバンドの各セクションスタイルもグループで受講できます。

また、受講者対象特別講義と致しまして、管楽器奏者の永遠の課題「呼吸法」の講習を特別講師に真々田昭司氏をお迎えして開講いたします。そしてフェスティバルでは、前回ご好評をいただきました「アンサンブルコンテスト」を今年は審査方法を変更し、初のトーナメント方式による「T-1バトル」として開催！

講演会はマウスピースマイスター第2弾として濱永晋二氏(マウスピース)が講演！ 皆様注目のスペシャルコンサートはジャズ4トロンボーンの老舗「ブルートロンボーン」！ メンバーはニューグレンミラーーオーケストラ出身のDaniel RILEY 氏や森寿男＆ブルーコーツの岩崎敏信氏など超豪華！

また、今、雑誌「管楽器パラダイス」などで注目度No.1のジャズユニット、刈込博之氏主催「ジョイフルプラス」！ クラシックでは、トロンボーンカルテットの雄、協会常任理事、村上準一郎氏 主催「ボザウネ シュトラーセ」！ そして、毎回多彩なゲストで楽しいコンサートを開催しているTp. 板倉駿夫氏 主宰、永瀬幸雄氏指揮(音楽顧問)「ブラストラボーン ジャパン」が、ある特別ゲストと共に出演！ その特別ゲストとは、皆様ブラウン管などでおなじみの「谷 啓」氏です。協会としても永年の希望でした谷氏の出演がようやく叶いました。トロンボーン奏者のみならず、楽しめる内容なっていると思っております。是非、皆様お誘い合わせの上、ご来場心よりお待ち申し上げております。



THE ☆ BLUE・TROMBONES

1982年3月岩崎敏信と(ニューグレンミラーーオーケストラ出身の) DANIEL RILEY, ZACHARY PETERSON. と共に結成。フォートロンボーンでグレンミラーとトミードーシーオーケストラの曲を演奏するグループとしてスタート。1983年7月ビクターより「ブレイング ブルーフォーユー」をリリース。その後、利根川勝氏(マルチプラスプレイヤー)入団と共にキングレコードより「ムーンライトカクテル」発売。現在、渡辺亮氏(ベーストロンボーンプレーヤー)を迎えて3rdアルバムを製作中！



JAZZ UNIT The Joyful Brass

ザ・ジョイフルプラスは「見て楽しい、聴いて楽しい」をモットーに1994年に結成されたジャズプレイヤーによる金管ジャズアンサンブルです。そのステージはパフォーマンスに富み視覚的にも見るものを飽きさせません。ライブハウス、イベントステージはもちろんのこと、全国の中高等学校でのコンサートや、会館自主公演等も好評を得ています。その他の活動としては、NHKの番組ゲスト出演、歌手のキム・ヨンジヤさんとの共演、そして日本テレビ系ドラマのサウンドトラックレコーディング(エベックス)など多岐に渡っています。また、2003年カファレコードより発売されたアルバム「Brass Craze！」は管楽器パラダイス(音楽之友社)でも特集記事が載り話題になりました。



プラス トランボーン ジャパン

トランボーンはトランペット、ボーンはトロンボーン、これらにホルンと打楽器が加わった金管アンサンブルである。設立は1985年、主宰者は元読響首席トランペット奏者、現在は日本大学芸術学部音楽学科の板倉駿夫教授である。設立当時は無名であった若手メンバー達が現在各オーケストラのトップメンバー等に成長し益々アンサンブルに磨きがかってきた。定期演奏会にはギターの原善伸、トランペッタのエリック・宮城、トロンボーンの谷 啓の各氏等をゲストに招き、その他ピアノと金管アンサンブルのユニークな楽しいコンサートを数多く開催している。トロンボーン協会の顧問 永瀬幸雄は当団の音楽顧問と指揮者を長年務めている。今回のトロンボーンフェスティバル実行委員長 牧瀬顕利もメンバーの一人である。

ボザウネシュトラーセ

我々にとって久々のコンサートです。大阪センチュリー交響楽団首席奏者の近藤孝司が百年ほど前のクラスベをソプラノ、アルト、テナーと揃えその美しい音色を聴かせる他、竹田年志…モンケ、村田秀文…タイン、村上準一郎…ヘルムート・フォイクトとドイツの名工たちの楽器が勢揃いし親しみやすいクラシックの数々を演奏します。



アカデミー -Academy- ■日時：3月20日（土）10:00～

■アカデミー受講料

一般 8000円、学生 6000円、JAT会員一般 5000円、JAT会員学生 4000円

※受講料にはグループレッスン、親睦会参加費を含みます。（フェスティバル入場料は含まれません。）

※非会員の方はフェスティバル入場料を合せた【セット】割引あり

《オプション／非会員・会員共通》

- ・個人レッスン…2000円
- ・オーケストラスタディ、吹奏楽、Big Band、各セクション
(Tb以外も可)…1枠 2000円

講師：伊波睦、郡恭一郎、首藤健一、西山健治、箱山芳樹、村上準一郎、村田厚生（50音順）

フェスティバル-Festival- ■日時：3月21日（日）13:00～

■フェスティバル入場料（全席自由） 一般 3000円、学生 2000円

JAT会員一般／学生 1000円（プロ アルテ ムジケのみ受付）

★オープニングセレモニー…日本トロンボーン学生連盟によるコンサート

★スペシャルゲスト 谷 啓＆プラストランボーン ジャパン 指揮：永瀬幸雄 / ボザウネシュトラーセ

ブルートロンボーンズ / ザ・ジョイフルプラス

★トロンボーン・アンサンブル・コンテスト【T-1バトル】★日本トロンボーン・コンペティション上位入賞者

★講演会…ベストプラス瀬永氏によるマウスピース講座 ★全員合奏

□同時開催！第9回トロンボーン懇親会（会費 1000円）

【お問い合わせ・マネジメント】

プロ アルテ ムジケ1

TEL. 03-3943-6677, FAX. 03-3943-6659

URL: <http://www.proarte.co.jp>

e-mail: pam@proarte.co.jp

※※詳細・お申込み、主催：日本トロンボーン協会※※
<http://www.jat-home.jp/>

何をやってもイイって言うんで、

なんかスライド外してベル叩いたりとかね、

カンカンカンとか。

谷啓さんインタビュー

【インタビュー 村上準一郎】

私がトロンボーンを始めるきっかけが谷啓さんだったり音楽を特には知らない人達にトロンボーンという楽器を説明するときに『谷啓さんの吹いてるこういうやつ』といふとみんなが分かるんです。

それほどクレイジーキャッツという音楽家の集団、コメディアン?喜劇役者?の集団?にいらして『若い季節』(御存知?)とか『シャボン玉ホリティー』などでトロンボーン奏者としての谷啓さんは日本国中に知られています。今日はトロンボーン奏者としての谷啓さんにトロンボーン吹きらしい質問をさせていただきました。きっと今までいろいろな機会に同じような質問をお受けになられた事だと思いますが、お忙しいスケジュールの中からお時間を頂きました。

トロンボーンとの出会い

▼▼▼トロンボーンを始められたきっかけは▼▼▼

中学の入学式で伸びたり縮めたりして吹いてる楽器を見て興味を持ちました。

逗子開成と言う中学でその頃は戦争中で軍国主義の強い学校だったんですけどね、入学式で演奏していた所謂吹奏楽団だったんですけど、振武隊と言う、つまり志氣を鼓舞すると言う意味のなまえです。

昭和20年の四月ですから演奏しているのは軍歌で閲兵式のような音楽で、校長が壇の上に立ってて在校生が四年生から若い方へ順に行進して校長に対して『かしらなか』と言うことをやる時代でしたが、そのこと自体よりもなによりも演奏の素晴らしさ、生演奏の素晴らしさです。それで生の演奏聴いたのは、戦争中ですから出征兵士を送るとき町内会の人たちが集まって駅迄旗を立てたりして送るんですよ。それに町内の楽器ができる人が3、4人集まって軍歌を演奏するんですが、バストラとか小太鼓はありましたねえ。管楽器ができるなんて人はそんなにいないからどこからか呼ばれてたんですかねえ?多い時は5、6人はいたでしょうか。

それがね、(逗子開成中学の振武隊のような)楽団の生の演奏を聴いたのは初めてでしたから、ま、レコードとかそう言うものは聞いてましたけど、そんな編成でも生の演奏はいいし逗子開成の振武隊はいい演奏をしてたんですよ。純粋な(イギリス式)プラスバンドではないんですけどその入学式の時は14、5人いたかな?

・・・逗子開成のプラスバンドって評判よかたんですよ。うまかったんですよ。そりやたまらないですよ。
・・・でその中で一番(トロンボーンが)目立ってたん

ですよ。

▼▼▼あ、あれ動きますからね▼▼▼

そうそう、

・・・行進する時は一番前なんですよね。

▼▼▼あ、あれぶつかりますからね▼▼▼

そう、前の人につぶからないように・・・

ニューオリンズのティキシーの連中も馬車の上なんかでトロンボーンが一番前にいる。

(私は)人見知りして恥ずかしがり屋なんですけども妙に目立ちたいと言う気持ちが別にあるんですね(笑)

▼▼▼そうですか▼▼▼

どうせやるなら目立つ楽器をと言うことで(トロンボーンを)始めたんですよ。

▼▼▼で、学校の楽器で始められたんですか?▼▼▼

ええ、自分ではもってないし、その時はまだトロンボーンと言う名前も知らないんですよ。だけど、入学式が終わった時にこの引っ越し案の私が学生の事務所へ飛んで行って「プラスバンド(その頃はプラスバンドなんて言わなかつたかな)」「あの吹奏楽団に入りたいんだけどもどうしたら良いでしょうか」なんて聞きに行ったんですよ。でもその時は「もっと後にならなきや分からないよ」なんて言われて諦めて帰ったんだけども戦争やってますから5月、6月。教室で勉強はいっさい無かったんですね。だから学校の門をくぐったのは入学式の時だけでそっから後は学校へ行くより軍事工場か・・・

開成はね、葉山の方の山にね植林作業と言ってねえ、杉の苗を植えるのを延々とやってました僕ら新入生は・・・そして8月終戦を迎えて2学期から学業が開始になったんですけどね・・・それで何月頃だったかな
また音楽部など(部活を)始めると言うので募集があつたので真っ先に行きました。・・・で先生が希望者を並べといて「やりたい楽器を言いなさい」と言わされたんだけど、(トロンボーンという)名前を知らないもんですからね。そこには楽器はその場に置いてなくて黒板に書いてあるんですよ。

▼▼▼それは文字ですよね?▼▼▼

そう、トランペットとかクラリネットとか書いてあって、それらはどう言う訳だか評判が良くて希望者が多いんですよ。・・・で、中音部になるとバリトンホーンとかあそこらへんから人気が下がって、トロンボーンの方まで来たんだろうけど、「こういう(手を伸ばしたり縮めたりする)楽器がやりたい」と言えなかったんですね。それで

テューバが残っちゃって(笑)・・・それで文句も何も言
えずに自分よりテカイような楽器を・・・

▼▼▼で、テューバですか▼▼▼

ええ、あまり乗り気じゃなかったんです。本当はトロンボーンだったから・・・だけど、一応音楽部に入れたんでそのテューバ家へ抱えて待って帰って練習なんかしようとしたんだけど、あまり乗り気じゃないから音符の読み方とか吹く練習とかしないままだったので先生からも怒られましたね。

行進曲とかばっかりだから「ポンポンポンポン」やつてりやいいと思って適当にやって、ホルンとかが「ンチャカチャッチャ」とやってるのをテューバで一緒に入れちゃってまた先生に怒られましたよ。

▼▼▼音符少ないですもんね▼▼▼

「楽譜に書いてないことはだめだと・・・日本の軍隊もそう言うことで負けたんだ」・・・と、良く訳のわかんないこと言われまして・・・でも、一年の時は発言権もないでのそのまま(テューバ)を続けました。

・・・で、二年になつ多時に少し発言権もでき・・・、バリトンホーンやユーフォニアムなどあそこらへんも気に入つたんですよ・・・(部活を)やってるうちに。

特にユーフォニアムとか美味しいどこがあるんですよ。

▼▼▼ありますよね▼▼▼

裏歌と言いましたけど綺麗な(オブリガート)が良くてユーフォニアムにしたんです。

そうやってるうちに譜面をユーフォニアムで読めるようになります... テューバじゃんぶんの連続みたいなものだけど(ユーフォニアムは)メロディーがあつたりして・・・。

で、そのうちユーフォニアム愛着を感じつとも早くトロンボーンやりたいなと思うようになりました。もちろんその頃にはトロンボーンと言う名前も分かっていました。

トロンボーンを手にしたのは中学三年の時でした。それはどこかから戻ってきたのかな?

それからトロンボーンを吹くようになりました。

プロの奏者へ

▼▼▼中学校に楽器を教える人とかいたんですか?先輩とか・・・▼▼▼

そこにね、ナカムラマサオ先生と言う横須賀の方では軍楽隊の隊長をやってたような方でその方が逗子開成の音楽部の親方をやってたんです。その人は各楽器は知りませんけども皆自己流でした。だから私もトロンボーンの正確な吹き方とかは習はないんですよ。それがいけなかつたんですけどね、結局は・・・。

▼▼▼それで自己流でも練習を?▼▼▼

でも家には楽器がないから竹の棒でやってたんですよ。

譜面を見て・・・

▼▼▼エー真似事だけですか?▼▼▼

ポジションだけ。この音は1ポジションとか第3ポジションとかね。譜面を見てすぐに手がポジションに行くような練習をうちでしてて、学校に行って実際に楽器を持って・・・その楽器は持ち出し禁止だったのかどうか知らないけどもうちにはもって帰れなかつたし、あれ持つて帰つて来ても大きな音がして・・・

そのうちにアメリカ軍のキャバレーのバンドに入れたんです。

▼▼▼ヘエ▼▼▼

簡単だったんですよ。・・・というの、進駐軍はとにかくもう



▼▼▼彼等が音楽を聴きたがっていたと言う話は聞いてました▼▼▼

どこ行っても進駐軍のキャンプだらけでしょ!

▼▼▼ええ▼▼▼

彼等は生の音楽が絶対必要らしいんですよね。飲んだり食事をしたりする時、それは下士官から将校や大将など偉い人までです。

▼▼▼どんな人も?▼▼▼

そう、それで僕らは兵隊の集まるEMクラブとかそう言うところで演奏してました。でジャズの演奏が彼等には必要だったんです。生音楽が・・・

店を開いていてそこへ行くと他には無いジャズのレコードを聴かせてくれるんですよ。コーヒー一杯飲んで・・・

うるさいんですよ、そのおやじさんが・・・俺学生だから学生服着て行ったりして・・・頼んでもなかなか聞かしてくれなくて・・・

▼▼▼その頃は大学ですか?▼▼▼

いやそこに行つたのはまだ高校でしたね。・・・で、やっと聞かしてもらつたりなんかして・・・ただ聴く曲って何を聴いたら勉強になるのかわからんないから、とにかくトロンボーンの・・・その当時のトロンボーンというとトニー・ドーセーという・・・その「アイム・ゲッティング・センチメンタル・オーバーユー」と言うのが、その店でトロンボーン吹きが来ると聴かせてくれる曲だったんですねえ。そればっかり聞いてましたよ。ジャズの経験が無いような人ばっかりで、昔からジャズやってるような人はごく稀でしたね。

だからみんなジャズに関してのノリ方、フェイクの仕方は一切分かりませんから。。。ただ良かったことは、僕はそのう横浜の黒人のクラブに入つてまして、

▼▼▼黒人の?▼▼▼

ええ、あちこち行きましたけど最終的にそこにいて逗子開成の仲間なんかも集めて9ピースのバンドを作つて皆で演奏してました。そこへ兵隊で楽器をやっていた人、いた人と言うかミュージシャンなんだけど兵隊でかり出されて日本に来たと言う人がいて、後で聞くと「エ! あの人

が!」って驚くような人がいたんですね。

それで、遊びに来て彼等も退屈してるんでどう楽器をやりたいんでしょう、トロンボーンを貸してくれという黒人が来ましてね、貸したらねすごいいいんですよ。なんか。これかああつて感じですね。音出しただけで、ショットこう借りて「ブーブーブー」。。。これが全然違う感じでね。何でもかんでもオッケーなんですよね。いい感じですね。。。。で、「会えてありがとう」って帰つて行つちやつた。そういう人が良く来てたんですよ。サックスをやるとかね。

▼▼▼そういう方のお名前って覚えてらっしゃいます?

▼▼▼

ええとね、覚えて無いんだけど、いたのは、デューク・エリントンとこにいたトロンボーンとか。。。ま、でもどうかなと言う眉唾もいましたね。ハリー・ジェームスのとこでセカンド吹いてたなんて人がトランペット借りて吹いてもブスブスいってるような人もいましたけどね。トロンボーンはなんかねえ、その後出て来たモダンジャズで(知られてる)JJ・ジョンソンとかあの感じなんですねもう。

▼▼▼はああ▼▼▼

僕らはメロディーをフェイクしながらの歌い方って全くわかんないんですよ。譜面から來ますから。

だからスターダストなんてやると、あのう、メモリー帳はみんな持つてました。メロディーだけ書いてある。

それを譜面どおりに吹くから「たらららーら、らーらー

ら(歌つて下さる)」ってなつてしまふ。それをフェイクしない、しないっていうかわかんないんでしうね。そういうような歌い方を遊びに来たトロンボーン吹きから・・・

▼▼▼それはとても貴重な経験ですね▼▼▼

ですよね。だけどそういうようなミュージシャンがいっぱいいるんですよ。秋吉敏子さんも、ちょっと名前は忘れましたけどすごいピアニストと知り合つてゐるし。その頃のピアニストのコード感覚はすごいと思ったんですけど。。。スタン・ケントンとか出て来た頃ですけど。。。ああいう音の重なりを耳で聞いてコピーしちゃうんですよ。

こっちは和音とか勉強してませんから何がなんだかわからんかったけれど、ウエストコースト派の学術的なジャズ、和音をいっぱい積み重ねた。。。スタンケントンが最初だったと思いますけど、そこら辺から音の重ね方というのを。。。.

▼▼▼ヴォイシングですか▼▼▼

そうヴォイシングだね。おれたちはやり始めの頃はただ単に3度下に音つけりやハーモニーになるとと思ってたからコードの進行とか頭になくて大変なことやってました。でもこれじゃあイカンなと思い、自分でバンドを作つて好きな音、好きなジャンルをやりたかったから、まずアレンジを勉強しなきゃと思って通信教育でやって。。。.

▼▼▼通信教育で(アレンジの講座)あったんですか▼

▼▼

ありました。あの頃ね、皆パークレーとか行つたりしてやってました。あとはジャズ学校へ行つて実際に授業を受けてとか、でも僕はこちらのスケジュールと合うようにと通信教育で勉強しました。

▼▼▼それはアメリカ軍のクラブの頃ですか?▼▼▼

いやもうそれはクレージーキャッツに入つてました。

エンターテイメントを求めて

▼▼▼あの、シャーブス&フラツツに入られたのはいつ頃でした?▼▼▼

たしか、昭和26、7年。。。.

▼▼▼26年からシャープが始まってますから▼▼▼

じゃあ27年かな。シャープに入る前は友だちと演奏やつていて派手な演奏したりしてたんですよ。それを見た原信夫さんが面白そうだから(谷さんを)引っぱれと言われたらしいんですよ。その頃だんだんと人気が出て来たしジャズコンサートというのが頻繁に行われるようになってきてジャズブームだったんですよ。その時にシャープから来ないかと言われたんで、「ようし、いいバンドから声が掛かつた」と思い仲間に「実はシャープから引っぱられてるんだけど」というと「イイじゃないの行け行け」と言われ入つたんですよ。

で、シャープで割と派手な演奏してるのでフランキー堺が見て「今度面白いバンド作りたいんだけど来ないか?」なんて(シティースリッカーズに)引張られて。。。そ

こら辺で、僕は戦後進駐軍のラジオ聞いてジャズに憧れたんですけど、同時にアメリカ映画が入ってくるようになって特に喜劇映画に興味を覚えて（ジャズ）そういうのが同時にできたらいいなと思ったんです。ジャズの方は進駐軍がいっぱいいたお陰でミュージシャンには割と簡単になれたけども映画のコメディアンというのはどうしていいかわかりませんから、シャーブス＆フラッツのステージの上でパフォーマンスの演奏をやって・・・

▼▼▼あの原さんから聞いた話ですけどトロンボーンの西村喜次さんと面白いことなさってたと・・・▼▼▼

そう喜次さんね。喜次さんと上着逆さまに着たりステップ作ったりしてそんなことをやってたんですね。

それをフランキー堺が見て彼がスパイクジョンズスタイルのコピーをやりたいというんで、それで面白いことやりそうなやつ探してたんでしょうね。それで引っ張られて。。。だからシティースリッカーズの仕事はのってたんですよ。お客様の前でなんかやるとお客様が受けると言ふ。ところが、フランキー堺さんが日活ができるそこへ引っ張られましてね。あの人も喜劇の才能とかすごくいいセンスをしてましたから。。。

▼▼▼あの頃の映画って兵隊さんの喜劇が多かつたような気がします▼▼▼

（フランキー堺さんが日活へ引っ張られ）それまで楽しくやってきたステージができなくなつて。。。彼が映画の仕事が忙しくなつて。。。でもバンドを遊ばせる訳にもいかないし銀座のナイトクラブではダンスマュージックを演奏させられるようになって。。。自分の希望はジャズやりながらなんか面白いことやつてこうという望みが消えてしまつてね。一緒にいた植木等、ええ彼もシティースリッカーズにいたんです、それに櫻井センリさんもいたんですけども、植木さんに相談して「おれは実はジャズだけじゃなくつてこっち（エンターテイメント）の方もずうつと前から行きたかった道なんだ。。。ダンスマュージックじやなくてステージの上でなんか面白いことやつてるようなバンド知らないか」と言つたらハナ肇という男を紹介してくれたんですよ。

それで彼に会いに行ってすぐに話を決めて、昭和31年の2月からだったかな、その当時キューバンキャッツといつてましたけど。。。▼▼▼ハナさんのバンドですね？▼▼▼

はい、そこに入ったんです。大丈夫ですかこれ？（録音中のMDプレーヤー故障）

▼▼▼あ、こちらでフォローしてます（牧瀬氏のMDプレーヤーのバックアップあり）▼▼▼

あ、そう。。。ま、もちろんトロンボーンの演奏からは離れて行くことにはなるんですよね。シャープの頃より。。。スリッカーズで若干（演奏から）ずれたかな？

▼▼▼でも、演奏が中心でしたんですよね？▼▼▼

はい、しました。クレイジーでも演奏が中心で音楽ギャグをやってましたけどね。その後は、植木等が映画

の方に出るようになって行きました。そこら辺でトロンボーンの方がおろそかになって。。。

で、よく人に言われたんですけど、「お前シャープまで行ってトロンボーンやつてて今みたいな変なこと始めちゃったんだ」と。。。ですけど、私としては、「昭和20年に戦争が終わつてすぐとにかくジャズとエンターテイメントに憧れたんだ」と。。。▼▼▼ええ（感嘆しきり）▼▼▼

「自分では狙つてる道を進んでるんだ」と。。。ま、どうしても管楽器の方は衰えてきますから。。。ところで、トロンボーンの基本になるトレーニングを全くやってないんですよ。自己流ですから。

トロンボーン談義

▼▼▼え、そうなんですか。▼▼▼

今の若い人たちってトロンボーンのテクニックでずいぶん上がつてしまつたでしょ？

▼▼▼ええ、そうですね▼▼▼

で、あれは音楽学校行つたり先生について基本のタンギングからやらつてる訳でしょ？一応（私も）アーバンとかの教則本をいろいろやってたんですけども。。。▼▼▼私なんてアーバン一つあれば良いかと思つてますけど▼▼▼

（アーバンの中の）地味なところはダメ。地味なところは抜かす。

▼▼▼じゃあ最後の方の派手なとこ。。。▼▼▼

いや、派手なとこ、難しいとこもダメ。地味なところは飽きる、真ん中の調子の良いとこだけ。。。▼▼▼

だからタンギングが今もう全くダメなんですよ。ダブルタンギングのトウクトウクなんて「ク」で音が変わらない。どうなんでしょうかね。ほんとに聞いてみたいと思つてんですけど。トロンボーンのタンギングが亂れちゃつてね、人に聞いたらなんかするんだけど、あんまりはつきり教えてくれないんだけど。

▼▼▼え、え、私に聞かれても困つてしまつますけど、ま、私が幼い頃戦争ごっこやってまして、機関銃の真似で「トウクトウク」とやってまして、トウクトウクは出来つたんですけどそれを演奏に使うとなると、楽器から全く別の音が出てきてしまいますので 音大卒業してだいぶ経つてから聞いた話なんですけど「トウ」「ク」をゆーっくり練習すると次第に音が同じになつてくと聞いたことがあります。▼▼▼

谷啓さん。。。 フムフムなるほど。。。▼▼▼

じゃあ今夜から早速やってみます。

▼▼▼え、今夜からですか▼▼▼

話し聞くとすぐやるんですけど、それが三日も続かない。本当に。。。▼▼▼

表を作つて何月何日何時間やつたというのをつけようと思って、その表を5、6枚作るんですよ。

だけど、一枚目の表の上方で終わつてるんですよ。楽器の練習以外にも、例えは血圧を計るとか凝つたんで表を



いっぱい印刷したんだけど2、3枚はいったかなあ。それは少し面白かったんで・・・そういうのが結構あるんですよ。

▼▼▼トウクトウクの練習は楽器とかなくて道歩きながらでもうわ言のようにやってるんですけど▼▼▼

昔はシングルだけでも良かったんだろうけど、今はヴァルブについてのトランペットのようにトロンボーンで「ドウルドウルドウルドウル（実に鮮やかなレガートタンギングを披露して下さいました）」って、例えばパンブルビー（熊蜂の飛行）を・・・すごいですねえ。

▼▼▼アービー・グリーンとかビル・ワトラスとかやつてますかねえ▼▼▼

ビル・ワトラスって人もすごいですねえ。あの人の教則本も買ったんですけども、テープも一緒についてて、ルドウルドウルドウルって、口ん中どうなってんだか。それをちゃんとやつたらできるのかなって。

ただ、（人に）聞いてもあんまり応えてくれないっていうか、はつきり教えてくれませんね。教えるのがイヤなんじゃなくて、・・・なんなんだろう・・・？？？「またまたあ」なんてそんな感じで言われちゃうんです。

▼▼▼僕もいろんな人に聞くんですけど、ああいう早いタンギングはどうやってるのか分からないです。今、手に入れたのがボブ・マクチェスニーって言う人のエチュードで分厚いんですけど・・・CDが付いててやっていけばああいうタンギングが出来るようになるらしいんですが最初の方で挫折しました。

ところで、谷さんはスーパーマーケットと言う御自分のバンドで御活躍ですが、トロンボーンをいつも吹ける状態にしているんですか？▼▼▼

いやいやいや、（このバンドをやるのを）楽しみにして

いるんだけど、一週間後に（コンサートが）ある時になつて慌てて楽器を持つんですよ。本当は毎日欠かさずにホンのちょっとでも吹いてた方がいいんだろうけども、やっぱりなんだかんだね、やることがいっぱいあって・・・。

▼▼▼そうでしょうね（このインタビューもお忙しいスケジュールの中からやっと御都合をつけて頂きました）。ナレーションなどもよくお聞きします。・・・今日はトロンボーン吹きとしてお聞きしなければならないもので他の事もいろいろお聞きしたいんですけど。そういう（コンサートの）前はどのようなウォームアップをされるんでしょうか？▼▼▼

あ、なるほどね。まず、ここの（指を五線に見立てて）B♭からF、B♭、D、Fくらいまでをリップスラーじゃないけどやって、（上の）Fからいきなり（ハイ）B♭を出そうとするんですが・・・、私はね、第1ポジションで（上の）A♭を出す癖がありまして（ハイ）B♭まで上がりず（ハイ）A♭が出て崩れちゃうことがあるんですよ。できるだけ（ハイ）A♭を出さないように練習してます。

▼▼▼あの（ハイ）A♭はアメリカの楽器では出にくいんですよね。ですからみんな3ポジションで・・・▼▼▼
谷さん・・・ ですよね。

▼▼▼1ポジションでのA♭は恐いです。▼▼▼

谷さん・・・ 恐いんだやっぱり

▼▼▼ドイツの楽器だと1ポジションでできる楽器もありますけど、たいていは諦めて3ポジション使ってますね▼▼▼

谷さん・・・ でしょ。だからね、何十年で1ポジションでのA♭出してたから逆に3ポジションじゃ恐くて出せないんですよ。たまに引っ掛け（アップグリース）ブルーノートとか吹く時はあの辺が具合がいいんですよ。

(話をウォームアップに戻して) それで音を慣らしといでペダルトーンまで落としたりした後、B♭からシングルタンギングで音階を、次にダブルタンギングで同じように音階を繰り返しやります。

皆凄いリップスラーやってますねえ。あれができなくってね。それからシェイクがダメなんですよ。

▼▼▼ピッグバンドだとシェイクやらされますよね▼▼

▼ 谷さん・・・ シェイクはやりにくいものの一つですか? 管楽器奏者としては。

▼▼▼僕は割と慣れましたけど、やりにくかったのは私はストローなんかこの辺(五線の下の方)にシェイクかかると▼▼▼

谷さん・・・ あ、そんなとこ書くんですか?

▼▼▼書く方が、あの前田慧男さんとか▼▼▼

谷さん・・・ あら、どういう効果があるんでしょうか。

▼▼▼何も効かないで誤魔化してました。▼▼▼

谷さん・・・ あれね、アドリブソロとかでちょっとツッポイところに「ナントカカントカウイ~イ~」って使いみちが・・・結構昔っからね、狙ってたんですけどね。どうも今一つシェイクはダメですね。

▼▼▼大学の2年の時にシャープヘトラで行ったことがあるんですけど、ジャズも何も分からず、譜面も見たこと無いようなの私が、「A列車で行こう」で最後にホーンセクションみんなステージの前に出て行ってシェイクするところがあるんですけど、横のトロンボーン3人の人は、名人ばかりだったんですが、綺麗にシェイクがかかってるんです。シェイクを知らない時代でしたから何だろこれはと思いましたね。

谷さん・・・ (笑) 谷山さんとか?

▼▼▼谷山さんが途中シャープを抜けてた頃で川口さん、小野寺さん、粉川さんでした。▼▼▼

谷さん・・・ (粉川さんて人は古いんですよ。生活向上委員会ってバンドやってませんでした。

▼▼▼やってたかも知れません。フリージャズの。▼▼

▼ 谷さん・・・ そうそうフリージャズの。

▼▼▼ほかに板谷さんて方もいらっしゃいました。▼▼

はいはい板谷さん。あのバンドがレコード出した時に聴いたんですけど名手ばかりですね。最初フリージャズつてのが世の中に出始めてなんか変なタイトルつけてアタラメやってればフリージャズになるんじゃないかと思ってたような時代があったんですよね。レコード聴いてみてかなりハチャメチャにやってるから・・・・

でも、(ミュージシャンの)経歴を見ると音楽学校出てたりして、あ、違うんだなあと思いましたね。

▼▼▼私はフリージャズの事は良く分らないんですけど▼▼▼

まあ、何をやってもいいと言うんですけど、そう言われ

ちやうと何をやたらいいんだろうと言うことになるんですね。

▼▼▼何かフリージャズをやられたことがありますか?

▼▼▼

彼に誘われて、あのピアノの・・・フリージャズの(腕を振ってクラスターの仕草)

▼▼▼あ、山下洋輔さん!! ▼▼▼

山下洋輔さんに誘つられて「なんかやりましょう」て言うんで・・・行ったらば、諸面と言うのはこんなちっちゃい紙つ切れに(コードネームの)F7かなんか、それから後にポーズ(フェルマータのマーク)が一つ、それより大きなポーズ、最後におおっさかなマーク・・・これで終わりですって。

これが何だろうと思って・・・。

▼▼▼F7? ▼▼▼

ま、基本的なコードはF7、ワンコード。ワンコードってどうでようと御自由にどうぞって・・・。

で、最後にここら辺でまとまったなと思ったらガーンとこうくる、それでもまたドラムが出てきたりなんかするとそのまんま続けて、もう一回またそれが出てきて、でもうこれでよそお、ホントによそおてな時に最後の大きなポーズだってなことを説明されました。テモね、初めてやるのに何も分からないままにたいへん失礼な演奏してましたけど・・・

何をやってもイイって言うんで、なんかスライド外してペル叩いたりとかね、カンカンカンカンとか。

▼▼▼そういうのはクレージーキヤツツでも・・・

『シャボン玉ホリティー』か何かで拝見したように気がします。今は楽器はキングをお使いですか? ▼▼▼

キングじゃなくてヤマハです。最初はいろんな楽器を使ってましてキングが良いと言うのでキング使ってるうちにJ. J. ジョンソンモデル、J. J. ジョンソンが日本に来た時に使ってたやつ、あれを向井茂春さんが貰ったのを安く譲ってもらい・・・管が太くてシントイというのですね。だけど向井さんがしんどいと言うのを普段吹いてない私がしんどくない訳がない訳がないんでね。でもなんとなくいい楽器と言う感じが・・・、今までのトロンボーンより割と高かつたし・・・確かにいい楽器でした。あの頃は音楽の(活動の)方も充実してた頃だと思うんですよね。

▼▼▼何年頃ですか? ▼▼▼

ええっとね・・・・・・・? ? ? 向井さんと知り合ってしばらくしてJ. J. が新宿厚生年金ホールでコンサートやったころですからねえ。

▼▼▼ところで、トロンボーン吹きらしい質問なんですけど、マウスピースは何をお使いですか? 今は▼▼▼

今ねえ中川英二郎君が自分でデザインしたモデルで彼らもらってやってますけど、だいたい(バックの)12Cっていうのが基本ですね。そのへんが一番(使ってる人が)多いですか?

▼▼▼そうですねえ、ジャズでは▼▼▼

クラシックの人に聞いたら物凄くテカイの使ってるんで

すね。

▼▼▼はい、6番とか5番とか・・・中には3番とか▼▼

それをね、使ってみようかと思って貰いに行つたけどちょうど無かつたし、貰ってもしようがなかつたんだろうなあと・・・何のために貰おうと思ったのか知らないけどもクラシックの人はこういうデカイ方が多いというんで・・・

▼▼▼12Cとは全然違いますから、大きさが▼▼▼

谷さん・・・ガラスでトロンボーンを作ると言う番組があつて（その時は）なんか中途半端な変なモン作つて帰つて来たんですけど、だいぶ軽つてから割と最近ですけど向こう（外国）でコーンかなんかの楽器の、スライドはガラスでできないと言うんでスライドの部分以外はそのまんまガラスで作ったんですね。

で、部分部分が、コーンだったかブッシャーだったか割とちやんとした楽器だったと思います。それが、完成したと言ふんで送つてくれて使ってみようと思ったらガラスつて鳴らないんです・・・なんか。

▼▼▼そうですか▼▼▼

ん、でね、これ鳴らねえなと思っててやっぱり金管は金属じゃなきやいかんのかなあと思ってて、どつかへ持つてつたらば、スーパー（谷啓さんのバンド、スーパー・マーケット）で仕事をする時にトロンボーンで片岡さん。

▼▼▼お父さんですか？▼▼▼

谷さん・・・息子の方。

マネージャーの大平さん・・・英二郎さんの代わりに入つてもらつたんです。

谷さん・・・で、これこれこう言う訳でガラスのトロンボーンだと見せて置いた。そうすると（彼が）吹いてんですよね。で、出かけて帰つてくるとトロンボーンの音が綺麗に聞こえてんです。バラバラバラバラ・・・あ、自分の楽器に持ち変えたなと思ったんですよ。ガラスのは鳴るモノじゃないと思ってたから・・・そしたらガラスのトロンボーンを彼（片岡氏）はバラバラ吹いてんですよ。

▼▼▼ホントに▼▼▼

これはなんなんだろう、と言うことはもうダメなんだ唇がね。鳴りにくいですとは言ってたけどもあんなに鳴るモノだとは思わなかつた。

▼▼▼彼は練習しますからね、何回も繰り替えしてるうちに慣れちゃつたんでしょう。▼▼▼

私はガラスだからってんですぐ諦めがついたんですけども彼がバラバラ吹いてんで・・・

▼▼▼彼に横で吹かれたらみんなトロンボーン諦めちゃうかも（笑）・・・昔、ビル・ワトラスと一緒に片岡君がステージにのることがあつたんですよ。小さな喫茶店ですけど。▼▼▼

谷さん・・・さくらんぼで？さくらんぼにビル・ワトラスが来たと言うんでびっくりしましたよ。

▼▼▼一部はワトラスだけだったんですよ。ビル・ワ

トラスでこんなもんかな？って感じで聴いてたんですけど、二部に入つて片岡君が入つて物凄いフレーズ吹き始めたもんだからビル・ワトラスも本気を出して・・・一部と二部とプレイが変わっちゃいました。▼▼▼

谷さん・・・ほんとに一

▼▼▼そこでホントのワトラス聽けました。▼▼▼

谷さん・・・最初から本気でやりやーいいのにね。ビル・ワトラスはあの程度かで・・・

トロンボーンフェスティバル御出演

▼▼▼今日はトロンボーンに関することでこんなにお話を伺えて有り難うございました。私どもの協会の理事会は年に何回か創設以来開いて来てますので度ごとに「いつか谷啓さんにフェスティバルに」という希望がいつも出てました。▼▼▼

谷さん・・・トロンボーン協会とかいろいろ見てて今さら出て行ってトロンボーン云々と言うのは如何なもんかと遠慮してたんですよ。このまえもN響のプラスアンサンブルにやりませんかと誘われて行つたんだけど、鳴らないのにプラスアンサンブルなんてとんでもないとお断りしてたんだけど、とにかくやってみませんかということでおやあ私が【譜面】書きやあまあいいだろうというんで【受けたんですけど】、プラスアンサンブルってね5本だけでも私が入つて6本の管楽器だけどもどう書いていいかね・・・。ピアノ、ベースなどのリズムセクションがあれば途中気の利いたソロにもつていけば良いんだけど、そうじゃないんでね。とにかく6本が常時なんか出してない（いけない）。

▼▼▼プラスアンサンブルってそうですね▼▼▼

大変でしたけど、おもしろかったです。・・・で、今までの（プラスアンサンブルは）トロンボーンは何本でしたつけ。6本？

牧瀬氏・・・去年の（プラスアンサンブルは）はトランペット2、トロンボーン3、ホルンが1、そしてテューバが1ですね。

谷さん・・・あ、そうか、トロンボーン3本か。

▼▼▼あ、その譜面をもし使わせていただけるんだったらそれをお願いしたいですね。▼▼▼

谷さん・・・そうですね。3月21日でしょ。やるとしたらもう1、2曲譜面を増やさなきや遺憾など・・・おれすぐ余計なこと言つちやうんですね。今言いながらよそうともって・・・

▼▼▼笑▼▼▼

谷さん・・・今の話は無かったということで〔笑〕。

▼▼▼リズムセクションを加えることもできますし▼▼▼

谷さん・・・これでねいつも後悔するんですよ〔笑〕。

▼▼▼では、来年3月21日よろしくお願ひいたします。▼▼▼

【平成15年12月29日 全日空ホテルにて】

2003年の主な来日アーティストのご紹介

昨年、来日した海外演奏家の方々を簡単に御紹介します。ベルリンフィル首席のオラフ・オット氏のリサイタルについては主催者である大友由紀子さんにコメントをお願いしました。

■ベルリンフィル首席トロンボーン オラフ・オット

東京代々木上原の閑静な住宅街に入り口にある多目的ホール・ムジカーザで行わ
れました。残響の少ない会場ではプレツツイナーを愛用するオット氏にとっては
いささか御苦労はあったようですが、ダビッド、グレーフェ、グレンダール、ギ
ルマン、ラーションのコンチェルトなどを音楽性豊かに演奏されました。

<オラフ・オット トロンボーンリサイタル実現の舞台裏 >
リサイタル実行委員会代表 大友由紀子（フィルハーモニック アソシアル管弦楽団 Trb.）

去る7月24日ムジカーザでのオラフ・オット トロンボーンリサイタルに日本
トロンボーン協会様には後援頂き誠にありがとうございました。当初、「無名の
外国人のトロンボーンリサイタルでは、お客様が50人集まるかどうか」という意
見もあり、大赤字を覚悟しておりましたが、お蔭様でチケットは2ヶ月前に完売
し、各所より「会場が狭すぎる」との苦情を頂戴しました。主催者としては嬉しい誤算でしたが、限られた方にしかお聴きいただけず申し訳ございませんでした。
主な演奏曲は、7月20・21日にオーケストラ伴奏でレコーディングしており、
今春にはカメラータ・トウキョウからCDがリリースされる予定ですので、
リサイタルにおいて頂けなかった方も、CD発売までいましばらくお待ちください。

オットの来日は、今回で14回目か15回目だったと思います。それにもかかわらず、控え目な性格のため日本で個人的に活動する機会ではなく、ベルリン・フィル首席とは言っても無名の存在でした。そのオットのリサイタルがなぜこのような形で実現したのかと、多くの質問が寄せられておりますので、私事で恐縮ですがお答えしたいと思います。

私がオットと知り合ったのは8年前の1996年7月20日、成田ーフランクフルトの飛行機の中でした。その日、私が所属する社会人オケは、当時ベルリン・フィル首席トランペット奏者コンラディン・グロートをソリストに迎えて演奏会を開いていました。しかし、ルーマニア出張が重なった私は演奏会に出られませんでした。「みんなステージ袖でスタンバイしている頃かしら」と思いながら搭乗の順番を待っていると、私の足元にトロンボーンを置く人がいました。それがオットでした。思わず「私もトロンボーンを吹くのです」と声に出していました。それからは、グロートの話、楽器の話、アンサンブルの話、お寿司の話等々で、12時間のフライトはあつという間でした。

1998年オットが第1トロンボーンを吹いているトリトン・トロンボーン四重奏団の4枚目のCD『トリトンの旅』が完成し、私はトリトンの日本公演が聴きたいと思いました。しかしオットは、「トロンボーンはポピュラリティーがないから無理だよ」と諦めっていました。2000年ベルリン・フィルで来日した際、プロアルテムジケの原社長にオットに会って頂き、彼が手がけた数々のトロンボーンの演奏会を紹介して頂きました。日本ではトロンボーンの演奏会が興行として成り立っているものと、この時オットの目には映りました。

学生時代から20年以上続いているトリトンの活動は、彼の音楽生活の原点です。日本でトリトンの演奏会を開くのが彼の夢の一つではありますが、第4トロンボーンのボイマーに指揮の仕事が増えたこともあり、メンバー4人のスケジュール調整は難しくなってきました。そこで2001年3月、「カルテットは無理でも、自分ひとりでも吹くよ」「2003年7月なら由紀子の（社会人）オケでソロを吹くよ」という話になったのです。

オットはドイツ国内でしばしば演奏会のソリストとして招待されています。本人も始めはそのつもりでした。ところがオケ側の回答は、「その時期に演奏会の予定はない。レコーディング・セッションなら考えてもいい」。いきなりCD制作の話にはオットも驚きましたが、2001年7月の来日の際にオケの練習を見てもらい、2002年7月にホール予約を済ませた段階でGOサインとなりました。CD制作はオケの自主企画のため、選曲にあたってはオーケストラ伴奏のトロンボーン協奏曲であることが条件になりました。アマオケが何ヶ月も伴奏の練習をするには、著名なオペラのアリアをトロンボーンで演奏してもらってはどうかとの意見もありました。しかし、オットにはオリジナル作品に対する強いこだわりがありまし



た。オットの希望を元にオケの事情を入れ、ダビット、ライヒエ、グレンダール、ラーションの4曲が決定しました。

「だったら是非リサイタルも」と友人の音楽プロデューサー小林宗生氏に言われ、オットに意志確認したところ即OK。2001年7月の来日の際に聴いた吉川武典氏のリサイタルが刺激になっていたようです。企画書を書いて都内の目ぼしいホールに売り込みましたが、「ペルリン・フィル首席はよくてもトロンボーンでは興行価値なし」と良い返事がもらえませんでした。そこで実行委員会を組織し、あのような形でリサイタルに漕ぎ着いたのでした。

オットの実力には（小さいと言う意味で）不相応な小規模なリサイタルではありましたが、日本でのソロ・デビューが叶い、また日本で演奏できることを楽しみにしていると言って帰って行きました。末筆ながら、実行委員各位はじめ皆様のご支援とご協力に対し、深く感謝申し上げます。



ピアノ伴奏の杉野裕子氏と

■ペルリンフィルバストロンボーン シュテファン・シュルツ

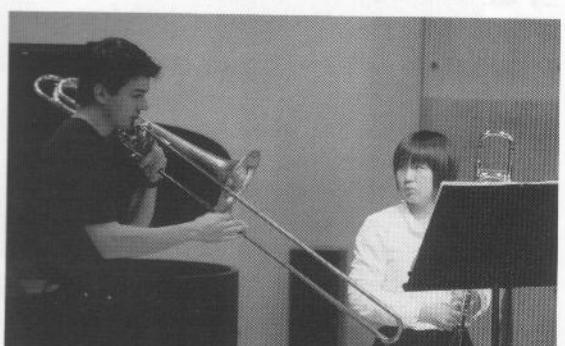
ミニコンサート&公開マスタークリニック

7月10日に新大久保の楽器店ダクの地下ホール[スペース10(ドゥ)]で行われた。

数名の音大生が彼のレッスンを受け熱心なトロンボーンの学生や愛好家、演奏家が聴講に駆け付けていた。さすがにペルリンフィルの奏者だけあって大きい会場をイメージして空気をたっぷり使ってシンフォニックに演奏することを前提とした講義が行われた。



シュルツ氏と梶原彰人氏



シュルツ氏と中村弥生さん

シュテファン・シュルツ氏のプロフィール

ペルリン生まれ。ホルンを始めるがその後トロンボーンに変わり H. Winker, J. Mittelacher, C. G. Vernon の各氏に師事。1993年から2002年までペルリン国立歌劇場のバストロンボーン奏者を務める傍らハノーファー音楽大学で講師を務め 2000年よりペルリン "H. Eisler" 音楽大学にて教授を務める。Trombone Quartet "Nomos" of Berlin, performs in various chamber music ensembles, バイロイト祝祭管弦楽団、各メンバー 2002年よりペルリンフィルハーモニー管弦楽団のトロンボーン奏者として活躍中。

■プロプラス

12月4日に東京錦糸町のトリフォニーホールで初めての日本公演が行われた。トランペットのハンス・ガンシュを筆頭にヨーロッパの優れた音楽家が結集し、斬新な編曲と完成度の高いアンサンブルを披露した。トロンボーンセクションは派手なソロはなかったものの良い響きとアンサンブルを聴かせていた。

プロフィール

ヴァルター・フォーグルマイア

1973年オーストリアのインクライス・リードに生まれる。86年リンツのコンセルヴァトリウムにてロイマイア教授、88年ウィーン音楽大学キューブルベック教授、93年フライブルクにてブランニール・スローカー教授に師事。97年ベルリン放送交響楽団首席トロンボーン奏者、2000年1月よりウィーン交響楽団首席トロンボーン奏者に就任。同時にプロプラスや現代音楽プロジェクトのムントアートクインテットウィーンのメンバーとして活躍している。

ジークフリート・ブンツ

1958年生まれ。リンツのブルックナー音楽院でトロンボーンを学ぶ。1983年よりオーストリア北部で教師として後進の指導にあたっている。

ゲラルト・ベッティンガー

1981年生まれ。1992年から95年ハーグの州立音楽学校にてテナーホーンを学ぶ。95年より96年まで同校にてトロンボーンを学ぶ。1996年より97年リンツのブルックナー音楽院でキュルナー教授に師事。

2001年よりモーツアルテウムオーケストラ、2002年9月よりリンツブルックナーオーケストラのバストロンボーンエキストラとして契約する。

アルフレード・ラウス

1950年生まれ。リンツのブルックナー音楽院卒業。1971年から78年までミュンヘン音楽大学で学ぶ。軍のバンドに所属していたとき、ハンス・ガンシュと出会う。現在はプロデューサー、作編曲家、芸術監督、音楽教師など多方面で活躍。

エミール・ハーテラー

1980年オーストリア北部に生まれる。現在、リンツのブルックナー音楽院で、キュルナー教授に師事しながら後進の指導にあたる。昨年ミュンヘン国立歌劇場首席トロンボーン奏者のオーディションに合格。



(左からフォーグルマイア・ブンツ・ベッティンガー・ラウス・ハーテラーの各氏)

編集担当からのお願い

トロンボーンに関する催し・コンサートなど
日本国内外かかわらずこのインフォメーション
コーナーに掲載いたしますので、どうぞ御遠慮なく
情報をお寄せ下さい。

連絡・お問い合わせ

日本トロンボーン協会事務局
(郵送に限る)

E-Mail : info@jat-home.jp

HomePage : <http://www.jat-home.jp/>

事務局からのお願い

住所変更

された方はお知らせ下さい。

TEL : 03-3943-6677

FAX : 03-3943-6659

第10回日本トロンボーンコンペティション報告

2003年11月30日(日)午前10:00～より洗足学園大学溝口キャンパスで協会主催のコンペティションが行われ、40名の参加者の中から下記の入賞者が選出されました。(敬称略)

第1位 東川 晓洋	高松第一高等学校(香川)	グレンダール「協奏曲」
第2位 岩倉 加奈	高松第一高等学校(香川)	エワイゼン「ソナタ」
第3位 越智 大輔	愛媛県立今治西高等学校(愛媛)	ボザ「バラード」
奨励賞 宮崎 真美	聖徳大学附属高等学校音楽科(千葉)	シューレック「ソナタ」
露木 祐一	神奈川県立二宮高等学校(神奈川)	デュティイユ「コラール、カデンツとフーガ」
平野 由佳	東海大学附属翔洋高等学校(静岡)	エワイゼン「ソナタ」

その他の本選出場者(予選通過者) 小篠 和弥(東京都立足立高等学校)、佐藤 亜衣子(神奈川県立弥栄東高等学校)
本橋 涼子(神奈川県立城山高等学校)、渡辺 里江(長野県立小諸高等学校音楽科)



写真後列左から奨励賞 平野 由佳さん、宮崎 真美さん、露木 祐一さん 写真前列左から2位 岩倉 加奈さん、1位 東川 晓洋さん、3位 越智 大輔さん 入賞者には賞状の他、協賛各社からたくさんの副賞がプレゼントされました。

審査員長：伊藤 清

審査員：池上 亘、伊波 肇、井上 順平、岸名 和巳、郡 恭一郎 白石 直之、首藤 健一、春山 和雄、前田 保、牧瀬 誠利 松本 熙、三輪 純生、村田 厚生

特別演奏：池上 亘(NHK交響楽団) 龜田 雄子(ピアノ)

協賛：(株)河合楽器製作所、真田貿易(有)、(株)セントラル楽器、(株)ダク(株)ネロ楽器、野中貿易(株)、ピュッフェ・クランポン(株)、(株)プリマ楽器、(株)山野楽器、ヤマハ(株)、(株)ヤマハミュージック横浜

協力：洗足学園大学、日本トロンボーン学生連盟



受賞者の声

高松第一高等学校（香川） 東川 晓洋（第1位）

僕はトロンボーンコンペティションに今回2度目の出場となりました。

昨年出場した時は、何もかもが初めての体験で、緊張して自分の力が出せなかったように思います。今回、会場の様子等ある程度わかつていたので落ち着いて参加することができました。

しかし予選が終わり他の出場者の演奏を聞いているととても不安になりました。無事予選を通過した時は本当にホッとしました。そしてあっという間に本選も終わり、結果発表の時はとても緊張しました。

今回僕がグレンダールのコンチャルトを選んだ理由はただ面白いというだけでなく技術的にも音楽的にも難易度が高く、とてもやりがいのある曲だと思ったからです。この曲で課題としたのはスタミナをつけることと細かい動きをきちんと吹くことでした。最初は曲を最後まで吹ききる体力も乏しくスタミナをつけることから始めました。本番では課題であったスタミナが切れ、大変消極的な演奏になってしまったように感じました。これからは音色の研究をはじめより自分の色の出せる演奏を心がけたいと思っています。

また大会が終わったあとのパーティーでも日本でご活躍されている先生方に講評をいただくことができ、大変光栄でした。今回このような素晴らしい賞を頂き、とても嬉しく思います。これからはこのことを励みとしてより一層頑張っていきたいと思います。

最後になりましたがこのトロンボーンコンペティションで審査員をして下さった先生方を始め、ご指導いただいた先生方、僕たちがスムーズに演奏できるよう配慮してくださった裏方の方々、本当にありがとうございました。

トロンボーンコンペティションに参加してみて 高松第一高等学校（香川） 岩倉加奈（第2位）

私が今回コンペティションに出場した理由は以前から演奏してみたいと思っていた曲を吹いてみたかったのと、高校三年間努力してきたことを先生方に評価していただきたいと思ったからです。

今回のコンペティションで本選2位という結果をいただきましたが、私が高校1年生の時にはこのような結果を出せるとはとても思えないほどの実力でした。高松第一高校音楽科の同級生にはトロンボーンの専攻生が2人おり2人とも1年生の頃から上手で私は2人に追いつくことができませんでした。2人に少しでも追いついていこうと練習してきました。

2年生のときに先生に薦められてコンペティションに初めて出場しました。その大会で本選に残ることができ今までの私にはなかつた自信を少し持つことができました。今回の大会は受験も有り大変な時期の中での練習でした。練習では、自分の技術がまだまだなところもあり、自分が理想としていたものとはかけ離れており、苦労したこともあります。しかし先生方の熱心なご指導もあり、自分が悩んでいた問題点などを少しずつ解決していくことができました。自分なりの努力を野中でとうとう本番を迎えるました。

当日はまだ不安な部分もありましたが、今まで練習してきたことを全て本番に出そうと、思い切って演奏しました。そして自分でも思ってみなかつたような素晴らしい賞を頂くことができました。

このコンペティションでの経験を励みにこれからも頑張りたいと思います。

最後になりましたが、審査をしていただいた先生方をはじめスタッフの方々有難うございました。

愛媛県今治西高等学校 越智大輔（3位）

今回のトロンボーン三位入賞は、自分自身大変満足できる結果だと思います。帰りの新幹線の中、嬉しさで飛び跳ねたい気持ちを必死で抑えていたことを思い出します。

曲の練習を始めてしばらくは、曲の雰囲気をつかめず苦労しました。また、大曲ということもあり、できない箇所ばかりで嫌気がさしたことありました。しかし、一フレーズごと何回も練習するうちに、できる箇所が増え、雰囲気も次第につかめ、曲が益々好きになってきて、練習が楽しくてたまらなくなってきたように思います。このコンクールに参加するために、協力して下さった先生方、苦情もなく長時間うるさい音をがまんして下さった近所の方、そして家族の人にも感謝したいと思います。来年は今年以上の成績を残せるように努力したいと思います。

伊藤清先生長い間御苦労さまでした！

国立音楽大学、東京芸術大学を退官

30余年に渡って国立音楽大学、東京芸術大学にてトロンボーンの指導にあたってこられた伊藤清先生がこの春に退官される。その長い教育活動について語っていただくには膨大な時間を要することでしょうがここでは極々簡単にお話を伺いました。

(昨年12月国立音楽大学トロンボーンアンサンブルコンサートにて
箱山芳樹氏と伊藤清先生)



<教育にあたって心掛けられたことは?>

トロンボーンの響きを大事にすることです。その響きは永遠の課題でしょう。また、時代と共にその響きや技術が変化しているようにも思います。最近では、海外から一流の音楽家が来日する機会も多くなってきましたが、学生さん達には理論とか理屈でなく身体や耳を使って彼等自身が感覚的に（トロンボーンの響きや技術を）身につける様指導してきたつもりです。

<心に残る思い出はなんでしょう>

国立音大は学生の数が多かったので1970年代半ばに日本で初めてトロンボーンアンサンブルコンサートを学外でやりました。これは日本のトロンボーン界にとって一つの転機だったかと自負しています。

国立も芸大も一流の演奏家として巣立って行った人もいれば他の道に進んだ人もいます。それはそれで良かったと思っています。

<今後の活動について>

今後も東京音大での指導がありますし、まだまだ身体は悪いところはないのでんびと・・・しかし行けるところまでトロンボーンを吹いてみたいですね。

INFORMATION

つくばトロンボーンクラブ第17回定期演奏会

会場 つくばセンター内ノバホール

(東京駅八重洲南口 高速バス乗り場から「つくばセンター行き」に乗車約一時間半、終点つくばセンターで下車し、徒歩にて約3分)

開演14時 2004年2月11日(水・祝) 開場 13:30 開演14:00 入場無料

プログラム： ロンド(A. チエイス) アイネ・クライネ・ナハトムジーク(W.A. モーツアルト)

8本のトロンボーンのためのカンツォーナ（ウォルターズ）

ファウストの効劇（ペルリオーズ）

他...

お問い合わせ 林 090-4155-6398 E-mail:h_aya_shi@hotmail.com

●つくばトロンボーンクラブ第17回定期演奏会のお知らせ

こんにちは、私たちは茨城県つくば市で活動しているつくばトロンボーンクラブです。来る2月11日(水・祝)につくば市内のつくばセンター内ノバホールにて演奏会を行います。おかげさまで演奏会も17回を迎えることができました。

私たちは筑波大学管弦楽団トロンボーンパートの現役とOBOGで活動しており、この年1回の定期演奏会が活動の中心です。普段は週2回練習しており、秋には今井順夫先生をお招きして合宿を行っています。

学生から社会人まで年齢層は幅広く、若者は先輩から技術を、年輩者は若者から若さを(?)と、お互い刺激しながら練習しております。今回も古典から現代まで様々なジャンルの曲に挑戦します。是非会場まで足をお運び下さい。演奏者一同ご来場お待ちしております。

筑波大学第2学群生物学類4年 下山 尚久

村田厚生トロンボーンリサイタル

2004年2月18日(水) 19:00開演

会場：東京オペラシティリサイタルホール

出演：村田 厚生（トロンボーン）<http://www.sonata.jp/>

共演：松浦 このみ、椎名 倫子、植田 真美（朗読）<http://www.gusuto-de-piro.com/index2.html>

チケット：¥3,500（全席自由）

後援：ドイツ学術交流会(DAAD)、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日本トロンボーン協会

お問い合わせ：プロアルテ ムジケ TEL. 03-3943-6677 FAX. 03-3943-6659

<http://www.proarte.co.jp> e-mail : pam@proarte.co.jp

村田厚生から一言：あーやっと試験も終わつたしなにかいいことないかなー？そんなあ

なたに送る、刺激的なコンサート。「トロンボーンの新事実 vol.3」

・J. サンドストレム「ラ・マンチャの歌」(1995) トロンボーンとテープのためのドンキホーテ 24時間営業。

・田村 文生「独奏トロンボーンのための二重奏」(2004) 委嘱作品。かわった題名の真意とは？

・河添 達也「Arrow-Cycle IV-b」トロンボーン・ソロのための (2003)

ユーフォニアム版の改訂。うむむ。。これは負けられん！

・前田 康徳「CONTACT～コンタクト～」(2003) トロンボーンとコンピューター音源、そして映像のための作品。

ディスプレイに作曲者の姿を見つけた人には幸運が。。

・M. スヴォボダ「V as in Cool」水道管と聴衆のための (1995) グアム生まれドイツ在住の名バーフォーマー提供。

アボリジニの民族楽器 "Didgeridoo" のクローンを演奏。

INFORMATION

学習院トロンボーンクラブ 第18回定期演奏会

2004年2月22日(日) 開場 13:30 開演14:00

会場 関東森林管理局内「木のアトリウム」入場無料 全席自由

プログラム: J.S.バッハ・・・「人の望みの喜びよ」他、コラール、民謡集など

お問い合わせ・・・ 森 090-8841-7666

西千葉トロンボーンクラブ 第23回定期演奏会

2004年2月29日(日) 開場 13:30 開演14:00

会場 千葉ばるるホール(千葉ばるるプラザ内) JR千葉駅より徒歩3分 入場無料

プログラム: ハイドンーヴァリエーション(J.ブラームス) ピアノソナタ第6番(プロコフィエフ)

トロージャントロンボーン(T.ベダーソン) クウイッパリーズからハムトロンボーン、

ミストロンボーンなど

お問い合わせ・・・ 斎間 090-5821-6411

第24回トロンボーンアンサンブルのタベ

武蔵野音楽大学トロンボーン専攻学生有志による

2004年2月26日(木) 開場 18:00 開演18:30

会場 練馬文化センター小ホール(つづじホール)

西武池袋線、西武有楽町線、都営大江戸線／練馬駅北口徒歩2分

入場料 一般¥1200、高校生以下¥1000(全席自由)

プログラム: バッサカリア ハ短調(バッハ) 委嘱作品(牛腸征司)

コージエントカプリス(T.ベダーソン) 独奏 桑田晃 読売日本交響楽団首席、武蔵野音楽大学講師

モリコーネセレクション(編曲;村田陽一)他・・・

お問い合わせ・・・ 中村 090-9958-0899

大坂センチュリー交響楽団 第19回いづみ定期演奏会

2004年4月23日(金) 開場 18:00 開演19:00

会場 いづみホール JR大阪城公園駅から徒歩5分

地下鉄OBN駅から徒歩5分

駐車場あり

入場料 A席¥4500 B席¥3500 C席 2000(残りわずか) D席 1000(売り切れ)

プログラム: カッサシオン ト長調より第3曲、第4曲、第7曲「おもちゃの交響曲」(L.モーツアルト)

アルトトロンボーン協奏曲(L.モーツアルト) Tb.独奏 近藤孝司

トランペット協奏曲変ホ長調(F.J.ハイドン)Tp.独奏 ウーヴェ・コミシュケ

交響曲第100番 ト長調「軍隊」(F.J.ハイドン)

チケット: 電子チケットぴあ 0570-02-9990 ローソンチケット 0570-06-3005 Lコード(51601)

いづみホール 06-6944-1188 センチュリーチケットサービス 06-6868-0591

お問い合わせ・・・ 大坂センチュリー交響楽団 06-6868-3030

URL: <http://www.mydome.or.jp/century/>

豊かに歌い上げられるウィーンの響き、至福の時

ウィーン・トロンボーン四重奏団

2001年の初来日は大好評に終り、今年またあのウィーンの響きが帰って来ます。

プログラムを見てください！これトロンボーン4本でどう吹いてるの！？



1992年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団など、オーストリアを代表する著名なオーケストラの首席等によって結成されたトロンボーン四重奏団。彼ら4人は通常、このグループのために作曲された作品や編曲された作品を演奏している。オーストリア国内における演奏活動、マスタークラスのほか1994年、1997年にCD録音するなど、その活動は世界の音楽ファンに広く知られている。2001年に待望の日本初来日し、各地で高い評価を得た。演奏はもちろん、マスタークラスでも細かくかつ音楽的なレッスンは生徒から高い評価を得た。

ディートマル・キューブルベック（ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団）
エリック・ハイツル（トーン・キュンストラー交響楽団）
オトマール・ガイスヴィンクラー（ウィーン交響楽団）
ヴォルフガング・フィスター・ミュラー（ウィーン交響楽団）

○シューベルト：弦楽四重奏曲第13番イ短調D.804『ロザムンデ』より第2楽章

○ブームス：ピアノ五重奏曲ヘ短調Op.34より第3楽章

○クライスラー：愛の喜び、愛の悲しみ

○J.シュトラウスⅡ世：春の声、トリッチ・トラッチ・ポルカ Op.214

他

【東京】2004年5月16日（日）14:00 トップホール／全席自由：一般4000円、学生3000円

【大阪】2004年5月18日（火）19:00 高槻現代劇場

【広島】2004年5月19日（水）19:00 広島市西区民文化センター／全席自由：一般3000円、学生2000円

【岡山】2004年5月20日（木）19:00 岡山市民文化ホール／全席自由：一般3000円、学生2000円

2002年の初来日は大好評に終り、待望の再来日！
ウィーン・フィルの伝統を受け継ぐ11人が奏でる音の祭典！

ウィーン・プラス・アンサンブル

【東京】
2004年10月23日（土）すみだトリフォニーホール

Tb.イン・パウスフィールド、ハンス・シュトレッカー、他1名

Tp.ハンス・ガンシュ、ラインホルト・アンプロス、他2名

Hr.ヴォルフガング・トムベック、他1名 Tub.パウル・ハルヴァックス Prec.アントン・ミッターマイ耶



※他公演情報あり、料金等は近々発表！



「トロンボーンのバガニーニ」が帰ってくる！常識を遥かに越える超絶技巧を難無くなるスーパーエンターテイナー！

クリスチャン・リンドバーグ

【東京】
2005年2月14日（月）トップホール

※他公演情報あり、料金等は近々発表！

企画・招聘・お問い合わせ

プロアルテムジケ 112-0013 東京都文京区音羽1-20-14-5F

TEL.03-3943-6677 FAX.03-3943-6659 e-mail: pam@proarte.co.jp